

児童発達支援 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援センター いろは			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ～ 令和7年 11月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55人	(回答者数)	55人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ～ 令和7年 11月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	18人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○多職種での支援 保育士、児童指導員、専門職員、機能訓練士、管理栄養士等の職員が、常勤として療育にあたっている。	毎月の施設会議や、朝礼時の振り返り、ケース会議等を通してお子様の様子を共有し、様々な職種の視点からの意見を取り入れ共通理解を図っている。	工作、運動、食育等、専門性に関わらず、それぞれの得意分野を活かした活動を取り入れ提供していく。
2	○生活環境の充実 指導訓練室だけでなく、ボウリングやブランコ等ができる遊戯室や人芝の園庭がある。また、トイレには個室や男児用、トイレトレーニング用便器、オムツ交換スペースがある為、個々に合わせて使用できる。	指導訓練室は3部屋あるのに加え、各指導訓練室の隣には個別対応可能な部屋もある為、個々に応じた対応ができる。また、小窓がマジックミラーになっている為、親御様の参観等ではお子様に気づかれぬように参観が可能となっている。	遊戯室や園庭を使用する時間をさらに増やしていくとともに、より安全を確保して支援していくために、活動内容によりスペースを区切ったり等の配慮をしていく。
3	○活動内容(プログラム、イベント)の充実 プログラムでは創作活動、ダンス、リズム遊び、運動教室、お出かけ等、毎日異なる活動をしている。 イベントは、お泊り会と親御様参加型の餅つきを毎年実施している。	週ごとにプログラムの目的を設定し、毎日プログラムを行う職員を変えることにより、様々なプログラムを実施できるようにしている。また、土曜日は平日にはできないクッキングやお出かけ等のプログラムに加え、入浴練習やお泊り会、親子参加型のイベントも行っている。プログラムの内容は送迎時や連絡帳を通してお伝えし、通信やHPのブログでも発信している。	引き続き、曜日や季節ごとに異なるプログラムをチームで立案し、常勤だけでなく非常勤も作成に携わり、より充実したプログラムを提供していく。
4	○相談等がしやすい環境 細やかな親御様への情報共有により、気兼ねなく話ができる関係性を構築できるよう努めている。また、参観や個人懇談だけではなく、要望に応じて面談や担当者会議等も行っている。	お子様の成長が見られた時や気付いたことは、都度親御様と共有している。年2回のアセスメントシートだけでなく、イベントや参観等の後には親御様からアンケートを記入いただき、ニーズ等も把握できるよう努めている。	引き続き、お子様の様子を支援後や翌日の朝礼時に共有していく。また、親御様からあがってきた相談事や悩み事については、必要に応じて会議を開く等しながら全職員で共有し、助言や支援をしていく。
5	○地域に開かれた事業所 2023度から親子参加型の餅つきイベントに地域住民の方を招待している。また、週初めには必ず施設周辺の清掃活動を行っている。	イベントの案内用紙を地域住民の方のご自宅へ、お子様と一緒にお渡ししに伺ったり、回覧板や地域の掲示板に掲示していただいている。また、挨拶をしながら清掃活動をすることにより、顔を覚えていただいている。	地域住民の方がイベントに参加しやすくなるよう、案内用紙を配布するだけでなく、可能な限り直接お声がけをしったりしていく。また、地域のイベントに参加できるよう検討していく。
6	○幅広い研修内容 職員の質の向上を図るため、社内に研修委員会を設置し、様々な研修を実施することにより、質の高い療育の提供へ繋げている。また、外部研修にも積極的に参加している。	義務付けられている研修のほか、研修委員会を中心に個別支援計画作成研修、事例検討会等、様々な研修を行っている。また、事例検討会では各施設の職員が進行役を担い、進行役としてのスキルアップに繋げている。	引き続き、研修日を複数設けることで、参加できない職員が出ないようにしていく。また、親御様やお子様、職員のニーズを汲み取り、質の高い療育に繋がる研修を行っている。
7	○メリハリのある支援 お子様一人ひとりと全力で遊び、お子様の「できた!」をたくさん認め、時にはしっかり注意を促し気付かせる。というメリハリのある支援を提供している。	お子様一人ひとりと「楽しい!」を共有できるよう、まずは職員が全力で遊びを楽しんでいる。その中から、「共感する力」「汲み取る力」「できた瞬間を見逃さない力」「見守る力」を養っている。	引き続き、日々の振り返りや毎月の会議等、職員全員が発言する機会を設定し、お子様一人ひとりの「未来」を見据えた共有ができるようにしていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○親御様同士の交流の機会や、外部の講演会等の案内をしているが、実施した際の発信が不足している	お知らせを配布しているが、内容の詳細の情報提供、共有が不足している。	今後も、親子参加型の餅つきを継続して行っていく。また、年に1回の親御様交流会のほか、悩み事や困り事を気軽に相談、共有できる機会を設け、外部講演会のご案内も積極的に行っていく。
2	○地域の幼稚園、保育園、こども園等と交流する機会がない	幼稚園や保育園に通園しているお子様が多く、来所が午後になる為、事業所内での活動を優先している。また、土曜日は地域の公園や図書館、スーパーマーケット等を利用しているが、同年代のお子様と交流することが難しい。	直接的な交流は困難な面もあるが、引き続き、公園や図書館、スーパーマーケット等の社会資源を積極的に利用していく。また、きょうだい児も一緒に参加できるイベントを考えていく。
3	○各種マニュアルの周知不足	各種マニュアルの策定や非常時の対応等を契約時にご説明しているが、その後の発信が不足している。	連絡帳や通信、HPのブログを通して発信しているが、行事の際に掲示物として分かりやすく発信する方法も取り入れていく。